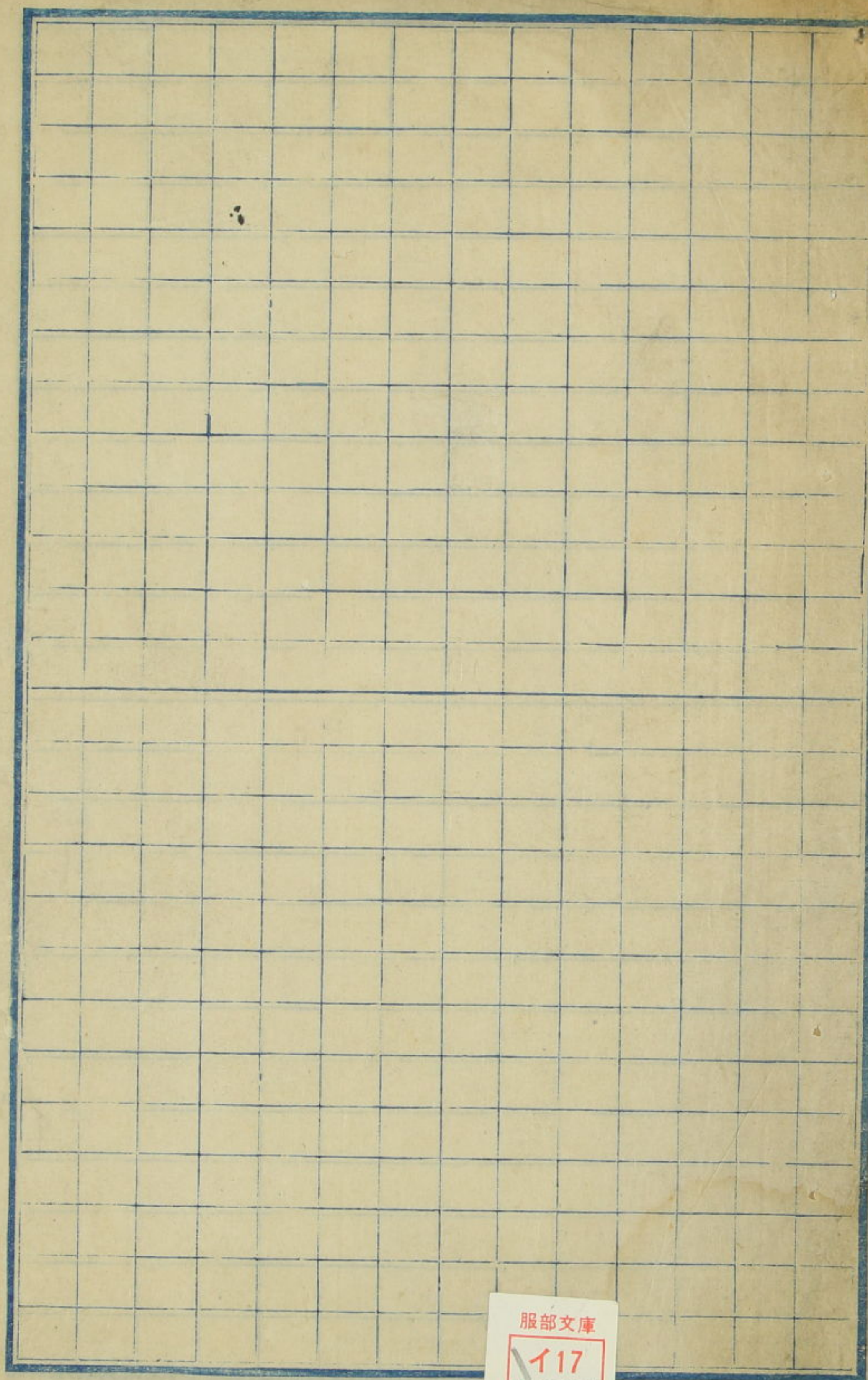
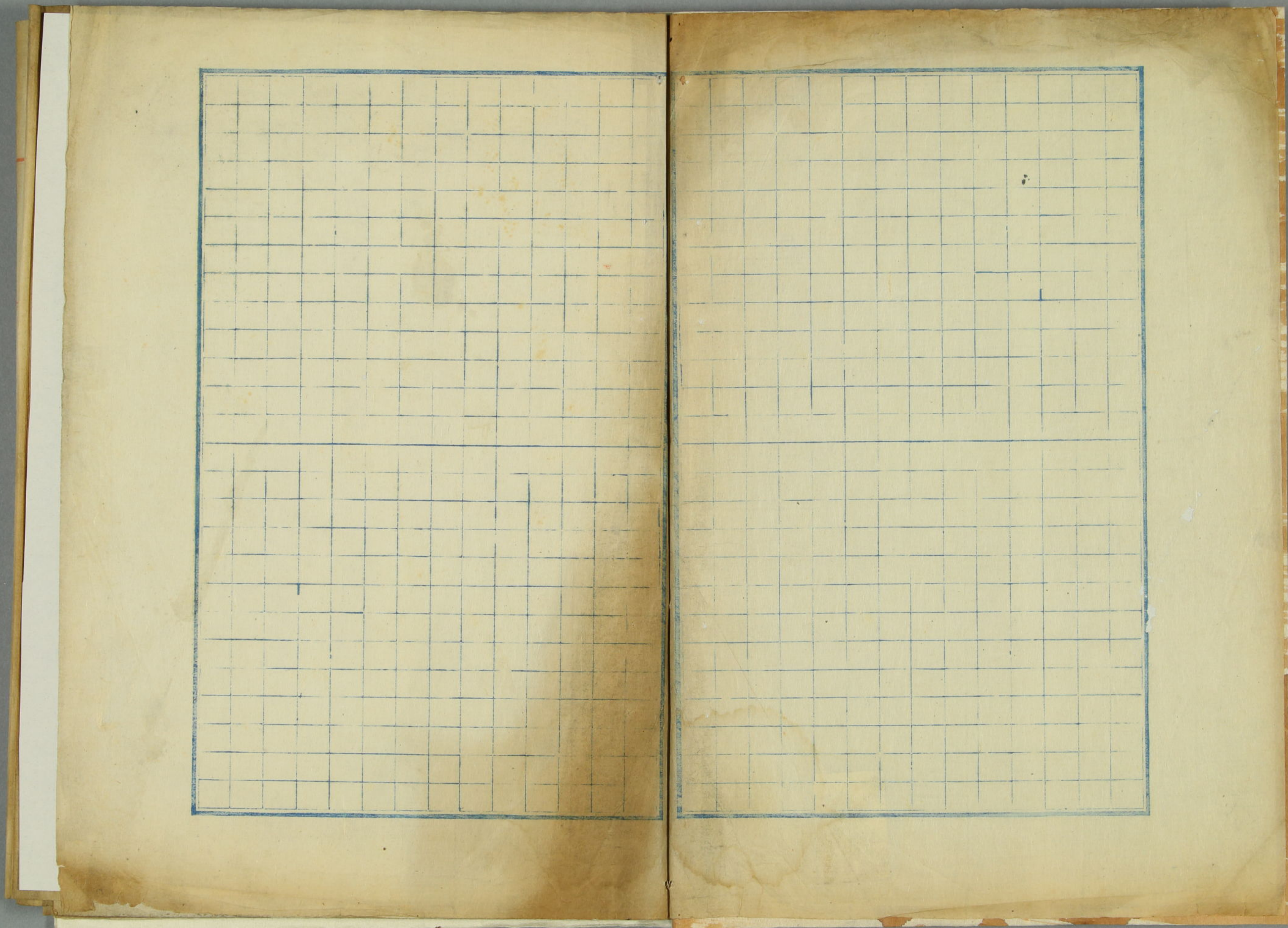


117 特
2189
84



服部文庫
117
~~2189~~



417
2319

98

服部元彰

當省御用挂被

仰付取扱准奏任五事



但月俸四拾圓給與五事

地理局事務可取
右殿新廣了越謹承付也

明治十六年二月廿六日 服部元彰

地理局長櫻井勉殿

西下以回しりて之、事彼州業
印標業、其書、何部、反、七、九、廿、久
至、多、少、要、事、之、上、本、二、年、一、行
本、方、局、長、小、一、備、任、王、色、一
後、副、明、采、道、三、年、下、以、道、是、
印、書、之、事、印、の、公、大、之、行、正、之、人
也、之、一、二、中、一、掃、一、印、原、同、業、

内務省

先、之、掃、業、之、事、一、久、之、業、
一、以、印、方、之、事、一、以、印、方、
同、之、事、一、以、印、方、
一、以、印、方、之、事、一、以、印、方、
一、以、印、方、之、事、一、以、印、方、

掃業

明治三年十一月十日

局長

山本保才一

符字字生

佐村種五

年之始... 山崎保太郎... 明治二十一年...

山崎保太郎

明治二十一年十月十日

局長

山崎保太郎

在任字生

山崎保太郎

右記... 山崎保太郎...

内務省

十年十二月六日

服部元彰
藤田光三

山林課

文書課

地理局長

十二月十六日

樹木法凡例を目前に法四覽に充て居るに
其の多岐に及ぶに定めては所轄官に不用
の及ぶに法四覽中一二之類を凡例
書に例言に記すに及ぶに係りては

明治十年十一月一日

藤田克三

地理局長

山林課
文書課

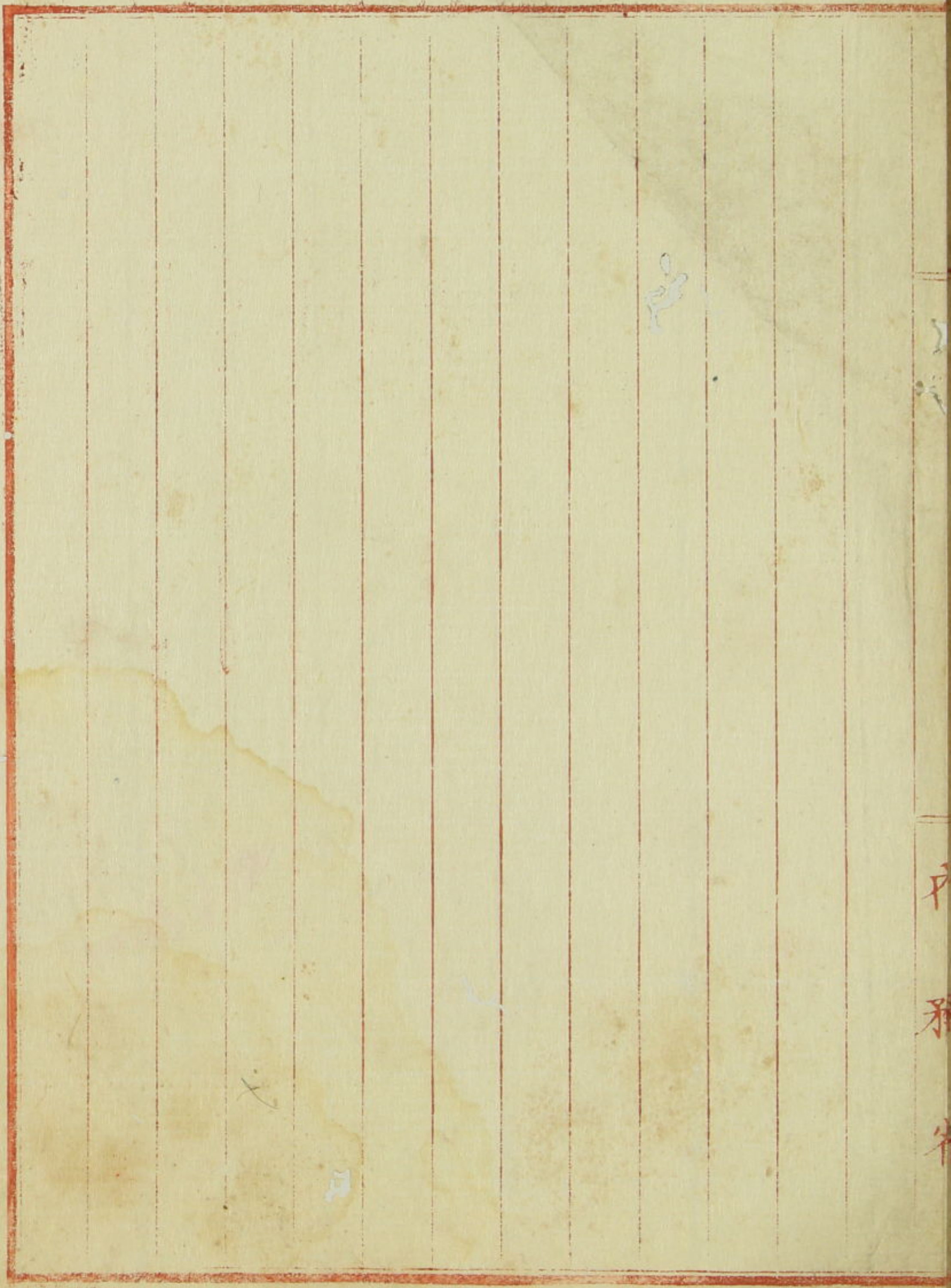
第一卷
一樹木誌

但出来分 十種

右供回覽也

コロツブラ 知悉スル 樹ハ 俗ニ 細柳
ト云フニ 聞者 亦 訛カ 者

内務省



明治十年十一月二日出

後部元彰
藤田克三

山林課
文書課

地理局長

第一冊
樹木誌

但由未分十種

右供回覽也

前、適地、部ニ溫暖、地ヲ喜フトアルニ此ニ商
解ト得ルニ似タレト全件詳ニ之ヲ視實ニ之ヲ行ハシ
云フ時ニハナク、然リ只適地ト曰ク博ニ云ハスレラ能
否ヲ説示セスレハ粘土ニヨキカ砂土ニヨキ、湿地ニ適ス
知ル能ハズ、之ヲ論テ小辨リ、樟木ノミナラズ、此葉中皆
ナクニセト欲セハ日モ亦是ラズ且夫、其人ニ之ニキ耶

明治十年十一月二日出

後部元彰
藤田克三

山林課
文書課

地理局長

第一冊
一 樹木誌

但由未分十種

右供回覽也

前、適地、部ニ溫暖、地ヲ喜フトアルニ、此ニ適應、地ト云ラ
解ニ得ルニ似タレ凡全件詳ニ之ヲ視察、之ヲ行ハント欲スル者ヨリ
云フ時ニハナク、然ルニ只適應トシテ抗博ニ云ハスレラ能ク其土質、痛
否ヲ説示セスレ、粘土ニヨキカ、砂土ニヨキカ、湿地ニ適スル燐地ニ應スルカ
知ル能ハスヲ論スル時、樟木ノミナラズ此禁中皆亦然リ、
ヲ詳ニセト欲セバ日モ亦是ラズ且夫、其人ニ之ニキ耶、惜哉、

朱附第...
而...
...
...
...



苗をいん / ねん / 又ハ羽をハ
年ニ移シカハ羽を
年ニ移シカハ羽を
年ニ移シカハ羽を
年ニ移シカハ羽を

桑、肥料ハ酒滓ヲ以テ最トナスト 嘗テ之ヲ聞ケリ再考アリタリ

横根ハ 斜根トス

丈ノ下ニ 許リ加フヘシ

如クノ下ニ 舵ヲアリ

矢張樹ノ生長ニトマツ方宜シカラン

送和所ニテ 橋ヲ對テカス
此ニシテ 筋ルヘシ

船體ヲスルハ 船ノ
材ヲ下ルニ 宜シ

木橋ト曰ク 柱ヲツク
程也

るある活方ニ 可也

差ヲ以シモ 玉ニシテ
病ニヨリテ 生ズル

六丈許 枝柯ヲ 伐スル
多シ

能り状に作らるる如し

此字、葉の楷、對し、流りに
うかんがゆし、女、
福

母、扁、柏、何、を、なり、白、は、朽、を、み、類、ハ
總、ラ、攪、條、ニ、最、適、ス、ル、モ、ナ、リ、是、ヲ、解、カ、ル、者、
改

皮、赤、モ、ト、何、ヲ、
改

苗、生、ス、ル、後、米、田、水、類、ヲ、浸、ク、ハ、總、テ、ノ、
ニ、在、テ、産、ス、ル、モ、ナ、ラ、ス、
固、也、此、必、シ、モ、改、ム、ヲ、深、ヒ、ス、
福、生

信濃ニテ、屋ヲ葺クニ瓦ニアラスハ、
つきの、二種ヲ以テ、最良トス、其、唐、松、ニ、テ、葺クモ、
如キハ、三、四、十、年、ヲ、經、テ、腐、朽、セ、サ、ル、日、ナ、リ、其、
記、事、カ、ル、
補

杖、色、白、梅、ト、云、モ、ナ、リ、赤、梅、ト、云、モ、ノ、物、使、異、ル、ハ、
アラサレ、産、地、ニ、ヨ、リ、老、少、ニ、依、テ、白、赤、ノ、別、ナ、リ、
赤、モ、淡、赤、ナ、リ、白、モ、淡、白、ナ、リ、此、解、ヲ、出、シ、
福

微、り、下、毛、を、し、重、
人、系、ヲ、
改、
福

本ノ字意如何

例ハ、
福

又曰、白質微赤ト云テハ、
福

船名抄ニ産スルモノノリテ一等ノ
ナニカ木ニ似たり
右ノ層加ハハ何
浦

活シ下ニ(易シ)ニナリテスル
改

帝立福
所屬ノ海ノ一帯ニ在
神ノ上ニ田中ノ事ヲ書カ
ク出スル事アリ也
藤田君

目アハトハ
何ノ義ゾ
帝立ノ経

此解ハ 苗植ノ下ニアリテハ 似合ハス 卷ニ 摺條ノ解

此竹柄果トナシ又ニ耐工
錦帯竹トナシ又ニ耐工
子用ニ

稗下ニ 改 脛 沖アルカ
十ニ子ヲ使ス

新ハ汁ノ誤カ粉ノ誤

黄ト上ニ 微ラ口ヲハ
根土ノ強枝ハ根下ノ小枝ト賣ナル事

根土ノ強枝ハ根下ノ小枝ト賣ナル事

能字何 及 脆後

萱科カ

和字以下 改 改

漫ハ漫ノ誤カ

其字 改 木ノ誤

能ハ 改 誤カ

柳 粉

子 粉

明治十年十一月六日

服部元彰
藏田克三

山林課
文書課

地理局長

第五號

一樹木誌

但書
拾五種

右供田覽候也



一三正綜覽

志部

右小当挂於編纂系上必用書三行以下渡
相成度此段及法照會也

明治十八年四月八日

藩屏沿革挂

文書課

法中

藩屏沿革

一日本地務提要 四十冊
多者雜解。口口口口口口口口口口
中口也

丁口口

照部元朝

地務提要 半

內務省

今般列紙し通し通し是は其の長き所より山内諸所へ
あしむ紙書寫すは通し納めしは其の長き所より
山内及山内通し通し

十一年七月廿九日

山林課長 田中



山内通し通し

其の長き所より山内通し通し是は其の長き所より山内諸所へ
あしむ紙書寫すは通し納めしは其の長き所より山内及山内通し通し

山林課長

文部省百十抄子

今般在る中ノ書ノ所ヲ期スルハ是迄有
録ナク保存初成所ノ書ノ所ノ款ノ意ノ所ノ
又書ノ録ノ所ナリハ至多ナク亦所ノ所ノ
所也

壬午七月廿一日

大塚三長

山本録

内務省

昭部之彰

五舟

昭部之彰
昭部之彰

内務省

昭部之彰
昭部之彰

昭部之彰
昭部之彰

別號... 活版部... 中... 計...
以之... 張... 計...
方... 及... 計...

四月九日

地理局
年

圖書局



地理局
第二七
〇
号

內務省

萬字印刷中紙ノ樹木誌ニ分投合切
紙ノ中誌分紙ノ中誌ノ任ニ分投合切
紙ノ中誌分紙ノ中誌ノ任ニ分投合切

四ノ下

活版部

印刷部

中

印刷部

印刷部

明治二十二年二月廿

局長

山田保太郎
文房

東京府立

加藤 悦

若原 正太郎

中島 正太郎

右の如くお送りし
て居る所を
御座りませう

文房

山田保太郎

明治十八年六月

卿

書記官

内白書二課

地誌着手先以テ千葉縣下ヲ美手以テ便宜地ノ語ヲ録ス
假標地也

千葉縣下ノ假一ノ美手ニ以テ下官房有ルル事ニ出張及
シテ官地ニ就テ便宜ノ語ヲ録ス後美手ノ計画ヲ定メテ
乃及リ

地誌ノ假一ノ村誌制成上即ニ地及リ即ニ地誌編成上

事務
省

事務
省

國法有無德之及也惟序之便而才黃道之新台方之可也
程身自可也法先之正確也法務之編成也之君子郡正德
以上之編成之國法有無德之及也惟序之便而才黃道之
右書也君子有在焉之便而才黃道之新台方之可也
之接用之有者也惟序之便而才黃道之新台方之可也
云大陸也法先之正確也法務之編成也之君子郡正德
之便

右相之文

千葉縣製管內實測圖送覽分率準望
既得其宜疆界詳明道里具備精核方邪迂直
如指諸掌嚮者余踐其地對此恍有再遊之
想矣夫實測事業固不容易今縣能為之奏
其功可不謂勉矣乎余嘉縣官之能盡加於
其職為題一言以還之云

千葉縣製管內實測圖送覽分率準望
既得其宜疆界詳明道里具備精核方邪迂直
如指諸掌嚮者余踐其地對此恍有再遊之
想矣夫實測事業固不容易今縣能為之奏
其功可不謂勉矣乎余嘉縣官之能盡加於
其職為題一言以還之云

內務省

御備服部元彰

御備服部元彰

一山林叢書 第二卷

右下賜候事

明治十一年五月廿四日

地理局

内務省

内務省

股部之義

一山林叢書第四卷

石下賜字事

地理局

二年七月

服部九彰

一地理高雜記第七号

有賜事

昭和三十二年四月一日

地理高



内務省

内務省

服部元彰

一山林叢書第三卷

右下賜候事

明治十一年六月廿四日

地理局

内務省

内務省

7/8 8/9

山林
不要記載

批第
四十九号

明治十一年五月十一日出

印在

那部元彰
恩田啓吾

山林課

地理局長

這回移布名國邦沿革史編修條
例別冊之由抄也

事務省

國郡沿革史編修條例

第一條

神代ハ洪荒ニ属ス舍テ録セス人皇ノ世ニ至テ日縱日横等ノ称アリテ後遂ニ五畿七道ニ定メラレシヨリ今日ニ迄ルマテ國郡ノ沿革ニ係ルモノ悉ク之ヲ登錄ス

第二條

其沿革ヲ大別シテ四項トス一ヲ道國郡村町ノ分合改称ニヲ各國大上中下小ノ別ニ^三ヲ地方官吏ノ制^四ヲ地方管轄ノ制トナス

第三條

凡沿革ヲ觀ルヤ圖ノ一目瞭然タルニ如クハナシ故ニ各々圖ヲ附記スル^一沿革圖^二既ノ如クナルヘシ管轄ノ沿革亦同^三沿革圖^四說管轄ノ沿革ヲ載ル足利得ノ世ニ止リ且誤繆多シ補正セサルヲ得ス

内務省

内務省

第四條

然レ氏國ハ特ニ全國ノ形勢ヲ觀ルノミ復表ノ各項ニ就テ其詳明ヲ認得ルノ益人意ヲ鑿カシムルニ如カス故ニ又表ヲ製スヘシ

第五條

抄録スル所ノ書六國史ヲ正史トス以テ本據ト為スヘシ其ヨリ以降歷代ヲ統紀スル者ハ大日本史ヲ確實ナルモノト為ス而シテ皆細事ニ及ハス故ニ傍ヲ風土記太田文及古今百家著撰中ノ憑依スルニ足ルヘキヲ採テ之ヲ擧ク風土記ハ殘缺多ク田事記ハ偽撰ニ係ル等最駁雜ナリ易シ魁メテ其憑依スヘキヲ採ル

第六條

中古ニ至テハ既ニ正史ナシ其詳明ヲ得難シ舊幕府ニ至テ較之ヲ網紀スト雖想フニ亦今日ノ事業ノ始末ヲ詳悉スル

カ如クナラシ而シテ其書モ亦獨リ官庫ニ藏シテ世間觀ルヲ罕ナリ故ニ其書目タモ知ル者少ナリ必ス官庫及書籍館ニ就テ借覽スヘシ

第七條

凡見ニ隨テ抄録スル所ノモノハ必採ル所ノ書目篇名ヲ詳記シ別存シテ一部ノ稿本トナス之ヲ沿革史徵ト稱ス

第八條

田圃道路堤防河川墓地一切ノ事ニ関スル沿革ノ大ナル者ハ更ニ一冊トナシテ本編ノ附録トナスヘシ

内務省

事務分掌権限

第一條 本部ノ事務ヲ左ノ科目ニ分掌スト虽モ該部
筆頭タルモノハ局長ニ對シ一切其責任ヲ有ス

議案

山林沿革史

雜報

種田 邁

糟谷 慎吉

松野 碩

服部 讓

宮田 備

服部 元彰

恩田 啓吾

藤田 克三

松野 碩

事務分掌

事務分掌

樹木誌

服部元彰
藤田克三

田中讓

松野 礪

藤田克三

池内真三雄

松野 礪

白野夏雲

杉浦良一

白野夏雲

杉浦良一

高島得三

大島國橋

試験場

材産

土石

日誌 第二部兼

全國山林表

江連堯則
中村敬弘
鴨下義俊
外人

第二條 各掌ノ事務ハ各自其擔任ヲ專有スルト雖モ該部

筆頭者之ヲ調理スル場合ニ於テ別段ノ意見アルハ其意

見テ陳ニ主任同意セハ之ヲ改メシムルヲ得ヘシ

第三條 各掌事務或ハ他ノ課部ニ関係スルハ合評協議ス

ルモノトス

第四條 局長ヨリ特別ノ取調ヲ命セラルルハ格別ナリト雖モ

其他ハ該部他ノ管掌權内ニ干渉スヘカラス

第五條 各掌事務外ニ於テ臨時ノ用ニ供使セントスルハ

ハ局長ヨリ該部筆頭ニ命シ筆頭之ヲ本人ニ奉達スルモ

事務省

ノトス故ニ直ニ局長ヨリ本人ニ命スル片ハ筆頭ニ通
知之職域ヲ離ル、モノトス
但事急劇ナルニ此限ニマラス

明治十年四月十三日出 印 鹿 非命元氣 恩田啓吉

山林課 地理局長

今般山林園部昔沿革而網羅當被
任事ニシテ古今書類通覧博採
神由史遺編等ニ採リ以テ編纂
何分局中難得ニ得ルニ自心
事ヲ任ルルニ書類ニ下海定網仕又
書類博採ニ涉ルニ書類ニ往來
知事用形會ニ書類ニ出以テ
右多不苦儀ニ年本也

一 地理學雜誌第六卷
官印賜書

服部彰

明治三十二年四月三十日

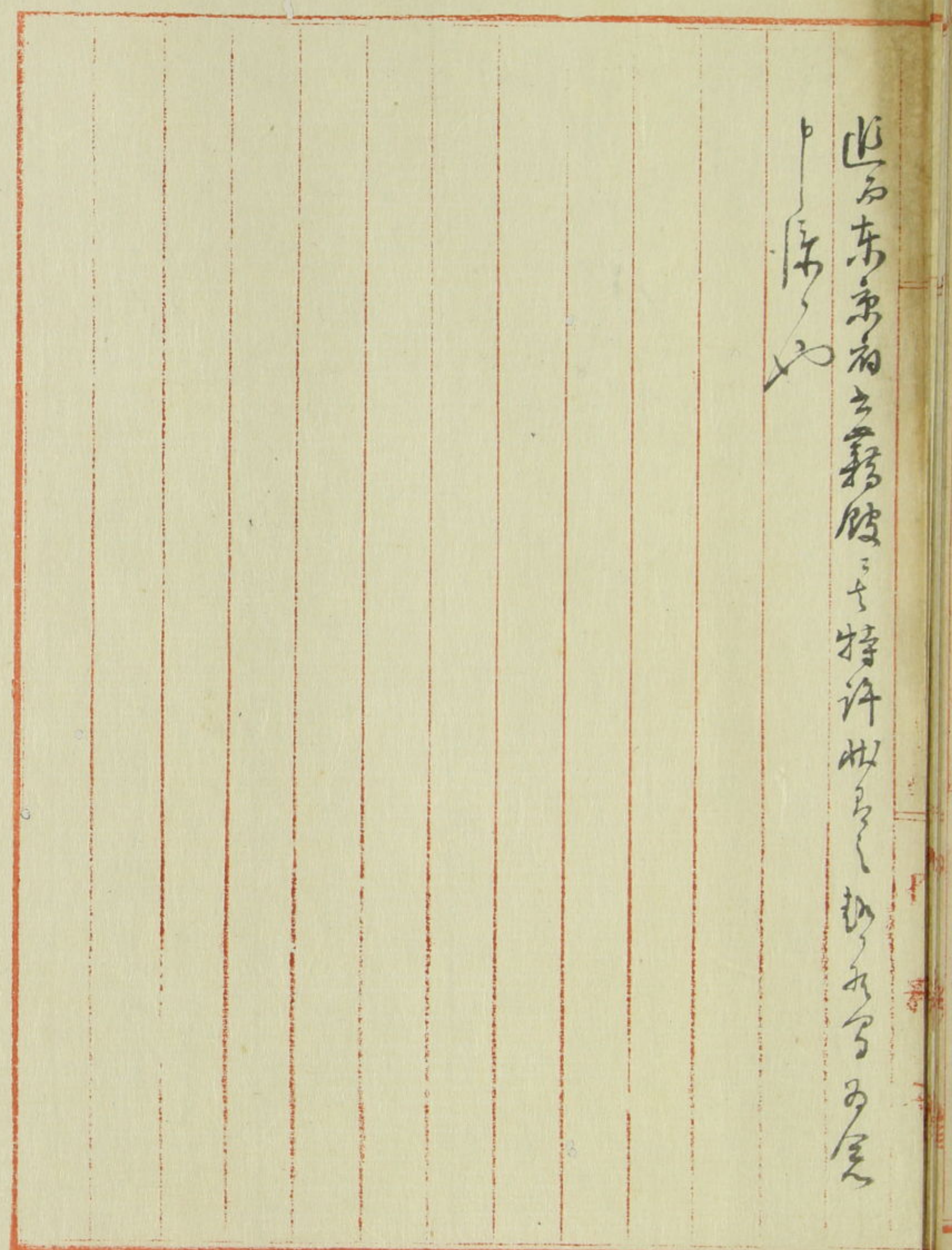
地理局



女子
事務
部

女子
事務
部

此石系東海之新破之持許也
中 係也



地理局御雇服部元彰

山林局御雇申付月給金貳拾圓給

與假事

右御達之趣奉教承假也

明治十一年五月十六日

山林局御雇

服部元彰



地理局御雇服部元彰

山林局御雇申付月給金貳拾圓給
與假事

右御達了趣奉教承假也

明治十二年五月十六日

山林局御雇

服部元彰

服部元彰

服部元彰

一地理局雜報第七号

右下賜候事

明治十一年六月廿四日

地理局

以字子身身字出 此雁 却部克彰

山井錄

馬長

十未京方士

如多錄 愧

古夕人附籍

如名氏

右快像之相 爲雁之字 戶口之字 亦
病象之字 亦之字 更之字 亦之字 亦之字
此象之字 亦之字 亦之字

內務省

雇服部元彰

本月三十一日ヨリ除服出仕申付候事



明治十四年十二月十八日

地理局



内務省

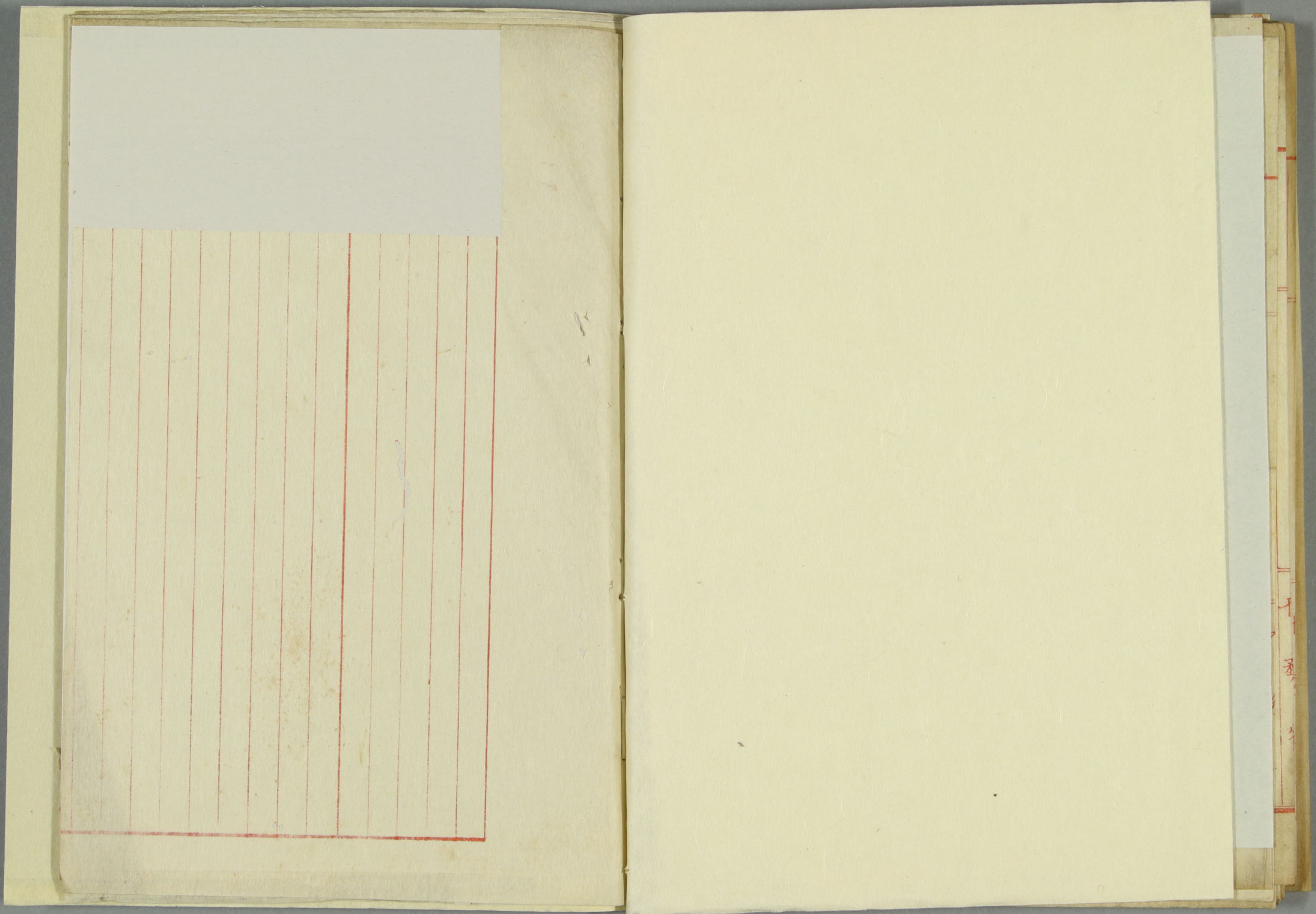
明治十四年

山内

雇服部元彰

文書係

山内



駒之追分河合十五番

韓人往後

中野省

中治

上野郡中治元
武光所置
上野邑中治
治法三存即大野木六野木即

後良祿望父人
少如多收一人一人一院
十方七十九名二千二依

山田政
中治元
時宗
治法

宗員
宗村
治法

宗俊
又口部
宗則

宗常
文明三自書

明治十三年十一月廿五出

通雁服部元彰

文書課

地理与長

本系系府弓名三

御書

御書

御書

御書

御書

三	和	元	内	居	長	陽	山	地	一	万	石	陽
一	五	又	如	子	一							
一	六	西	江	差	橋	亭	東	一	万	石		
定	水	十	石	代	中	北	一	万	石			
定	文	八	井	古	陽	山	一	万	石			
字	保	十	水	神	老	寺	一	万	石			
三	元	物	筆	地	一	山	一	万	石			
如	一	字	家	外	一	山	一	万	石			
不	十	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

也
里
向

廿七日

蝦夷地開拓

守衛ノ儀

當節ノ時勢

專要ノ事

小舟別段

ノ

ノ

蝦夷地開拓守衛ノ儀當節ノ時勢專要ノ事小舟別段ノ

譯を以て蝦夷地ノ内割合領分被成下候松平陸奥守位

竹右京大夫酒井左衛門尉同様被仰付候間諸事申詰

一同入精專開拓等格別行届候様可被取計候内海御警

衛ノ儀ハ御免被成候且又南部美濃守津輕土佐守持場

の儀ハ只今迄の通り相心得陣屋有之場所にて相應

地所被下候間是又申詰一一同入精相勵可申旨被仰出

之候

全文言松平肥後守佐竹右京大夫酒井左衛門尉一も全

様被仰付候間右同新可被取計候尤も函館表松前地一

松平陸奥守

松平陸奥守

松平陸奥守

松平陸奥守

松平陸奥守

松平陸奥守

松平陸奥守

松平陸奥守

松平陸奥守

松平陸奥守

九

其方之安也... 新撰及深志... 下... 之... 之...

...

...

十

...

大日本史卷一百十四 列傳
武智麻呂傳

為近江守奏言部內諸寺多占疆區元不造修虛上名藉所
有田園欲自專利若不釐正恐致滅法人情稍薄釋教陵遲
非唯近江餘國亦然望徧令諸國革弊還淳從之 續日本紀

卷一百二十

和氣清麻呂

十五年乞骸骨不許賜功田二十所以傳子孫云々堂墾田
一百所於備前永為賑給之資鄉民賴之 細宣 紀 宇佐

真綱 清麻呂子

賜備前水田二十所為功田以傳四世 類聚國史

...

卷一百二十五

清文子氏公々々子岑継

承和中贈伊勢壹志郡空间地一百三十所続日本後

卷一百二十六

藤原緒嗣

承和二年賜摂津島上郡

藤原緒嗣 紀行 藤原の板橋極西の木の 阿波 板橋 土佐 村 日向 板橋 大陽 板橋
丸太伊豆の菅楊木の位波の里孫臣の桑根板の板日の
尾久志杉陸奥の丸太源位孫臣の桑根板の板日の
日向の材子なり 是山母のこの神代より作りてを母
おまをてこれ大陽をて

明治十三年二月

博物の史傳課

分

御子神書院

カキコトシテ
尤全父のしる
城ノ内ノカキ
コト

信口蓮

信日向

信須卷

信泣草

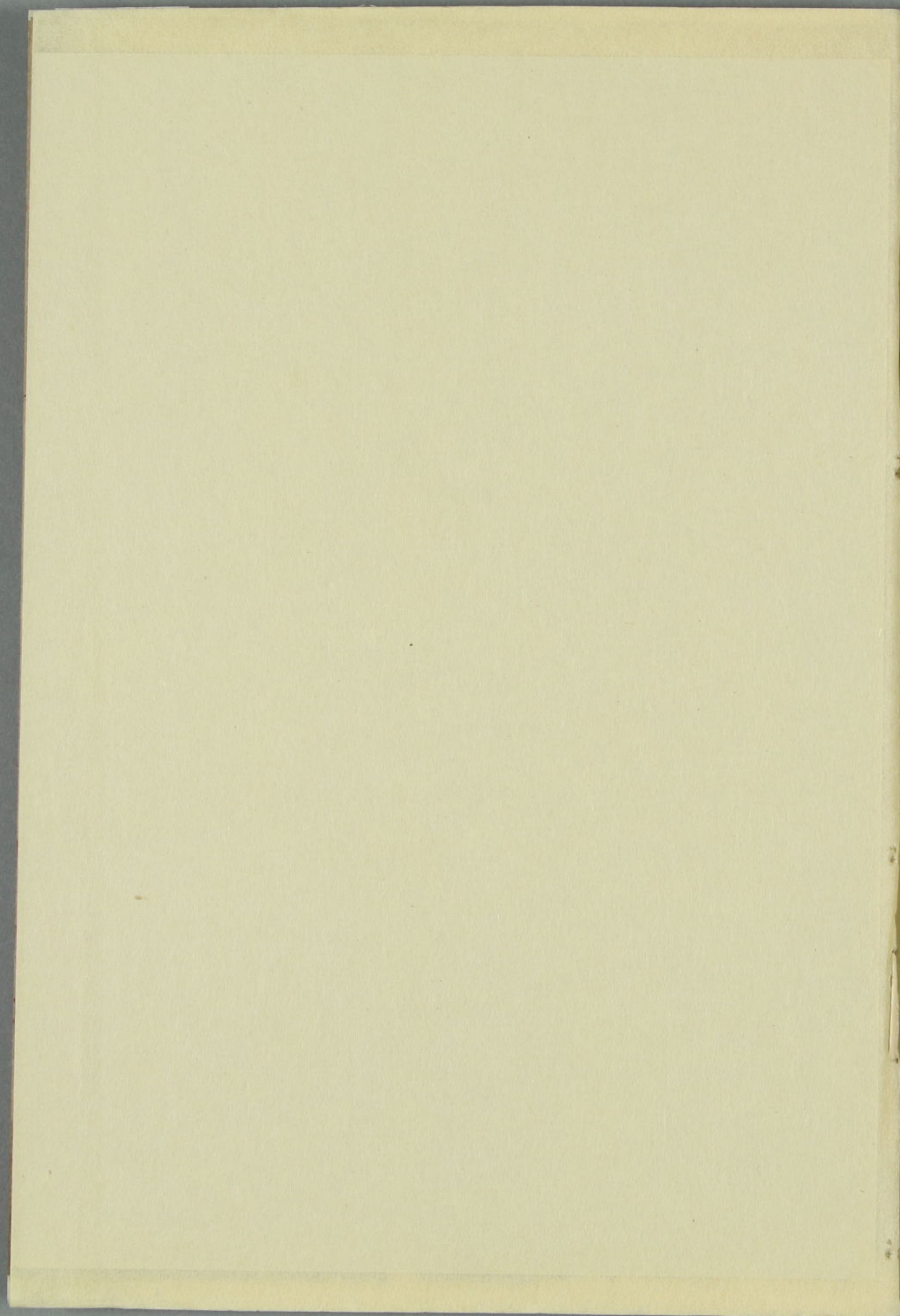
右之字ノ親也
カキコトシテ
信ノ内ノカキ
コト

信口蓮

竹
笏
省

竹
笏
省

竹
笏
省



寫字生公勤薄

眼部元彰

內務省



以下全て
白紙

